

## さいがいはもと(素因)ときっかけ(誘因)でおきる

自然災害には必ず大きな原因があつて、特にだいじなのは災害を大きくする、つまりきっかけがあるということです。自然現象をうまく避けながら、被害に合わないような暮らし方をしていけば、その被害を最小にすることができるのです。特に、これからは気象へんどうで自然現象のきよだい化や発生はっせいの数が多くなることが心配しんぱいです。

## きょうせいこそが、ぼうさいへの対応

私たちは、自然の中で、自然を活用しながら、きもちよく安全な暮らしをめざしています。それで、人間がかってに自然を一方向的にぎせいにして暮らすことは、生活を続けていくことができなくなります。自然のめぐみとおそれをいっしょに付き合っていくことが必要なことです。

## ゆだんたいてきのもととは、じぶんじぶんにあり

注意をじゅうぶんにしないことを、油断ゆだんといいます。災害になるもとがはっきりしているのに、気づかなかつたり見ないことにしていると、何かあつた時には思わぬ大きな被害があることとなります。自分から、その気にならないと、いやなことやきけんなことも見えなくなります。

## **め**配いで身を守る

ふだんから身の回り、通学路などでいろいろなものを注意深くみておくと、  
地震の時に危ない場所や、洪水の時に危険なところをおぼえることができます。  
それをみにつけるのは、いつのまところでもいつとも違うことに気がつくこ  
とです。しっかり周囲をみわたして、命をまもりましょう。